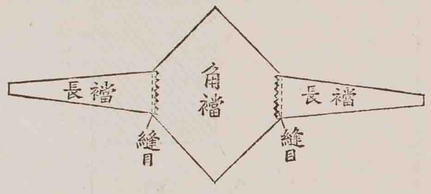
縫ひ方　（縫目は全部千鳥で伏せる）

(い)角襠の2.8寸の處と,長襠の幅廣き處とを合せて縫ひ折りは,角襠の方に返す次圖參照)

角襠と長襠とを縫ひ合せた處(裏)



(ろ)前後の胯上を6.2寸の處を縫ひ,折りは前は背と反對に,後は背と同樣に返す。

(は)角襠の角を,前後共胯上止りに合せて,左右共下に釣合ひを取り,長襠の裾口まで縫ひ(長襠の裾口は,自然に消える樣にする)折りは身の方に返す。

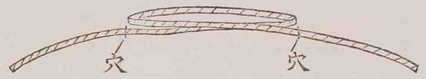
(に)長襠から下の前後を合せて縫ひ,折りは前の方へ返す。

(ほ)裾口を0.5寸裏に折り,これを三つ折りにする。

(へ)左右の脇に圖の通りに,穴を明けて縢る。

(と)上部(胴廻りの處)を1寸,裏に折り返し,其端を0.2寸中に折り込みて,

三つ折りになし,其中に丈55寸のテープを圖の如く入れて折り山に千鳥を掛ける。



同帯

地質　木綿

寸法　幅 1.4寸　長さ 60寸

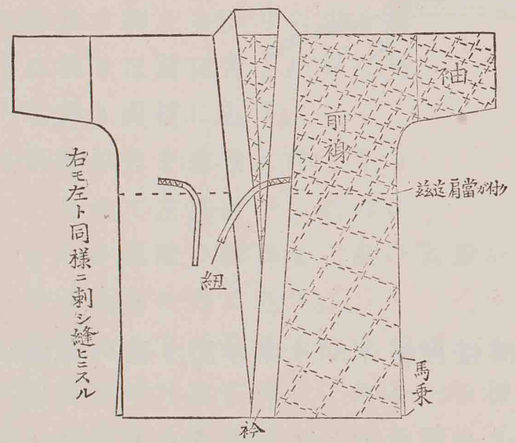
仕立て方

二枚の芯を入れて普通の紐と同樣に絎け,0.2寸位の間を置いて,縦に刺し縫ひをする。

附言　有段の人は黑·無段の人は白を用ひ,又青年段は茶,小年段は紫を用ひるなど,色々の定めがある。

擊劍の誓古着

名稱　圖參照



仕立て上げ寸法

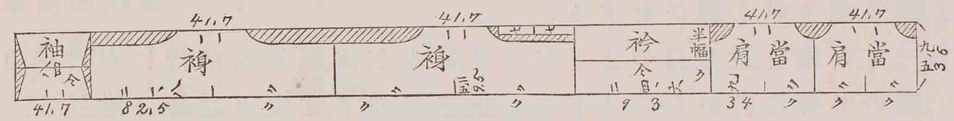
（鯨尺は寸單位 メートルは糎單位）

寸法 / 名稱		大 鯨尺	大 メートル
身丈		21	79.5
絎		13	42.8
袖幅		4	15.2
袖口		4.2	16
肩幅		9	34
後幅		7.5	28.4
前幅		6.5	24.6
衿幅		1.3	5
衿肩		2.2	8.3
馬乘		4.5	17
紐	幅	0.3	1
	丈	7	26.5
肩當丈		8.5	32.2

記載ノ表ハ大ナルモ極大,中,小ハ柔道着ニ準ズル

地質　柔道着と同じ。

並幅の布を以て擊劍稽古着の裁ち方積り方。



積り方公式　2袖丈＋4身丈×衿丈＋4肩當丈＝用布

同　　算式　5.5×2＋21.8×4＋24.6＋9×4＝158.8

縫ひ方　（捻糸で縫ふ）

(い)肩當ての下部を,四枚共縫ひ代を裏に折り,伏せ縫ひにする。

(ろ)肩當てと共に,背を縫ひ,折りを附けて,肩當てから下の縫ひ目を伏せる。

(は)袖を附け,折りは袖の方に返し,縫ひ目を伏せる。

(に)脇及袖下を續けて縫ひ,馬乘りの處を,前後共三つ折りにして縫ひ,脇縫ひ目を伏せる。

(ほ)袖口及裾口を,三つ折りにして縫ふ。

(へ)衿を接いで附けること,柔道着と同じ。

(と)圖の通り刺し縫ひをする。

(ち)一方の端を裁ち目のまゝにして,紐を二本絎け,左は衿に右は抱き幅の中央に,肩から6.5寸下つた處,千鳥で2寸位の間縫ひ附ける。

油單

仕立て方種類　簞笥油單·長持油單·釣臺油單·挾箱油單。

地質　簞笥·長持·釣臺の油單には,木綿·金巾·紬等を用ひ。

挾箱には｛表　金襴·緞子·綸子·錦·繻珍·羅紗等
　　裏　甲斐絹·絹·羽二重·金巾等

紋の大きさ　10寸以上14寸位

紋の位置　前幅の中央で,高さは(布の高さ－紋幅)÷3＝紋から上の寸法

故に三分の二が,紋から下の寸法になる。

但し釣臺の油單は,前後に附ける。

緩み　度り寸法に0.5を加へる。

簞笥の油單

小簞笥の寸法

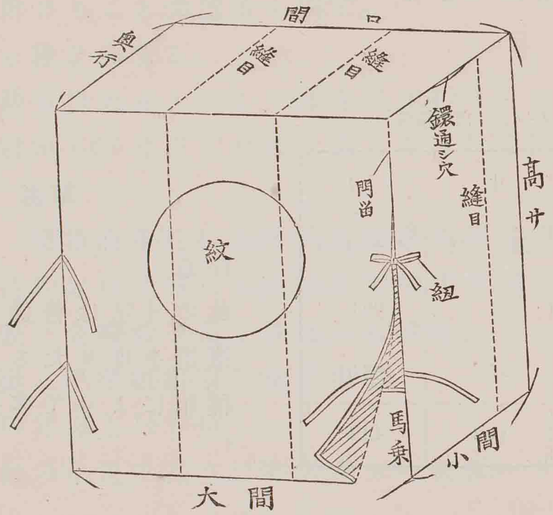
(鯨尺は寸單位 メートルは糎單位)

名稱	寸法	
	鯨尺	メートル
廣サ	24	90.9
高サ	27	102.3
奥行	11.2	42.4

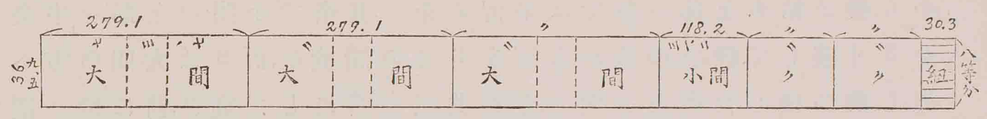
注意

此の寸法は普通の,或る一つの簞笥を度りたるものなれば,其種類によりて多少相違がある。

名稱　圖參照



並幅の布を以て,簞笥油單の裁ち方積り方。



積り方公式　3{2(高サ＋臺ノ高サ＋綏ミ＋裾ノ縫代)＋(奥行＋綏ミ)}＋3(高サ＋臺ノ高サ＋綏ミ＋上下ノ縫代)紐丈＝總尺

同　算式{(27＋2＋0.5＋0.5)×2＋(112＋0.5)×3＋(27＋2＋0.5＋0.7)×3＋8＝313.7

縫ひ方

(い)紐の一方を裁ち目のまゝにして,八本共縮け置く,(紐幅0.3寸又は0.4寸)。

(ろ)大間を三布共縫ひ合せ,折りは背と同樣に返し,伏せ縫ひにする。

(は)小間を一布半になる樣に,左右共縫ひ合せ,折りは一幅の方に返して,伏せ縫ひにする。

(に)小間に幅標を附け,上部幅の中央と,大間丈の中央とを合せ,それか

ら左右に,釣り合ひを取り,(角では大間の方を0.1寸位緩める),後裾口から縫ひ始め,上部の角では糸留めをし,其糸で小間の上部を,中央を3寸殘して縫ひ,前角から下を3寸の間縫ひ,折りは大間の方へ返し,縫ひ殘した處,及び穴を,左右共三つ折にして縫ひ,前に縫ひ置いた處を,伏せ縫ひにする。

(ほ)裾口を,三つ折縫ひにする。

(へ)馬乘りの間を三等分して,二ケ所に紐を左右共,裏に附ける。

糸の掛け方　裏表共同じ針目。

(と)鐶通し穴の兩側,及び馬乘り止りに閂止をする。

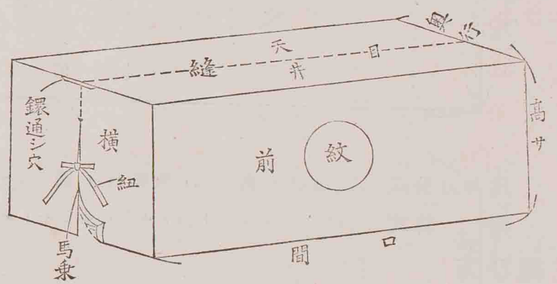
長持の寸法

長持の寸法

(鯨尺ハ寸單位 メートルハ糎單位)

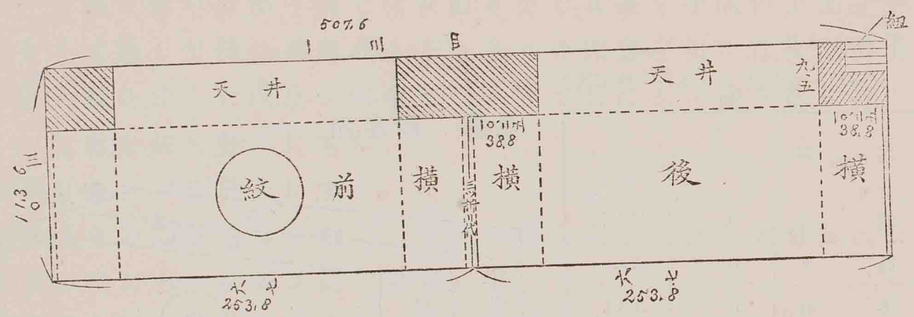
名稱	寸法	
	鯨尺	メートル
間口	46	174.2
高サ	19	72.
奥行	18	68.1

名稱　圖參照



注意　其長持によつて多少寸法の相違がある。

幅30寸の布を以て,長持油單の裁ち方積り方。



積り方公式　2(間口＋緩ミ)＋2(奥行＋緩ミ)＋兩横ノ三ツ折リ代×4＝用布

同　　算式　(46＋0.5×2＋(18＋0.5)×2＋1×4＝134

縫ひ方

(い)紐を四本共に,簞笥と同樣絡ける。

(ろ)兩横の明きの處を,上部から3寸の間縫ひ,縫ひ目は左右に開き,其縫ひ込みの端を,裾口まで折つて縫ふ。

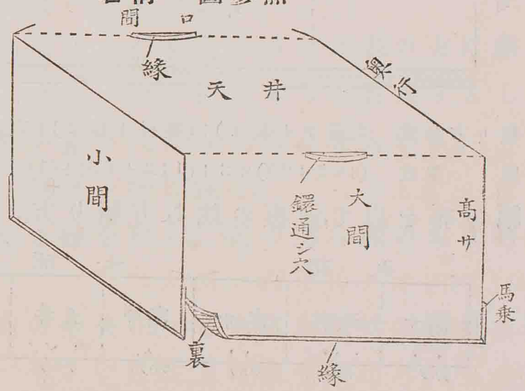
(は)天井の中央を縫ひ合せ,折りは前に返して,伏せ縫ひにする。

(に)横布と天井布とを合せ,中央を3.5寸縫ひ殘して縫ひ,折りは天井の方に返し,縫ひ殘した處(穴)を,左右共三つ折り縫ひにする。

(ほ)下部を,三つ折り縫ひにする。

(へ)紐を明き丈の中央に,簞笥と同樣に附け,鐶通し穴の兩側に閂留めをする。

名稱　圖參照

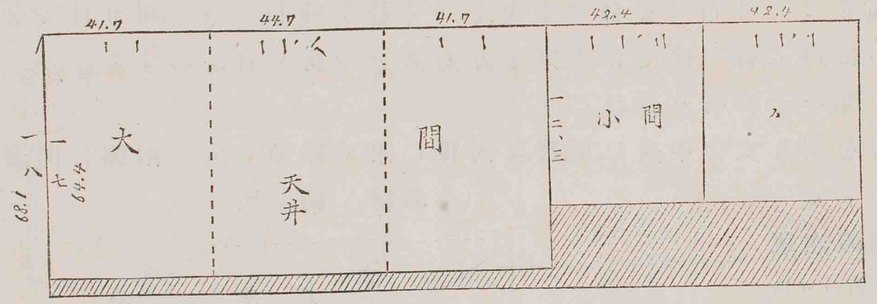


鋏箱の油單

鋏箱の寸法
(鯨尺ハ寸單位 メートルハ糎單位)

名稱	寸法	
	鯨尺	メートル
間口	16.5	62.5
高サ	10.5	39.8
奥行	11.3	42.8

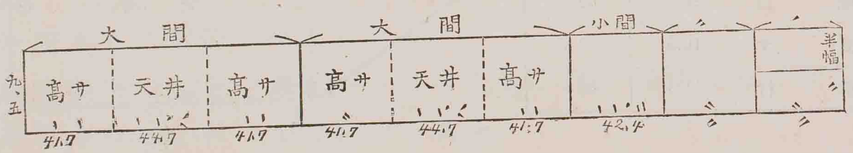
幅18寸の布を以て,挾箱油單の裁ち方積り方。



積り方公式　2(高サ＋緩ミ)＋(奥行＋緩ミ)＋2(高サ＋緩ミ＋上部縫代)＝用布

同　　算式　(10.5＋0.5)×2＋(11.3＋0.5)＋(10.5＋0.5＋0.2)×2＝55.8

並幅の布を以て,同裏の裁ち方積り方。



積り方公式　2表大間丈＋3表小間丈＝用布

同　　算式　33.8＋2＋11.2×3＝101.2

裏表の外に笹縁を用ひる,(笹縁は,金銀糸で織つた厚板の如き紐)。

縫ひ方

(い)表と同幅になる樣に,大間及小間を縫ひ合せ,折りは片返しにする。

(ろ)小間を表を外に二枚合せて,躾けを掛け置く。

(は)大間裏表で小間を挾んで,兩横及上部を縫ひ,折りは表の方に返して,表を出し,縫ひ目を正しくする。但し裾口の方を馬乘りとして縫ひ殘し,其止りで小間の方の縫ひ代に切り込みを入れる。

(に)裾口の裁ち目を,裏表揃へて,躾けを掛け置く。

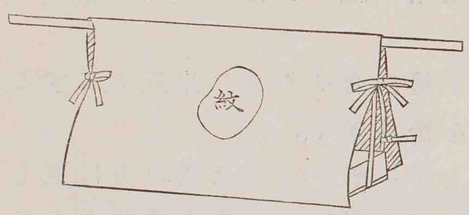
(ほ)裾口から馬乘りに續けて,細き縁を取る。(角の處は縁の引き釣れぬ樣に襞を取る)。

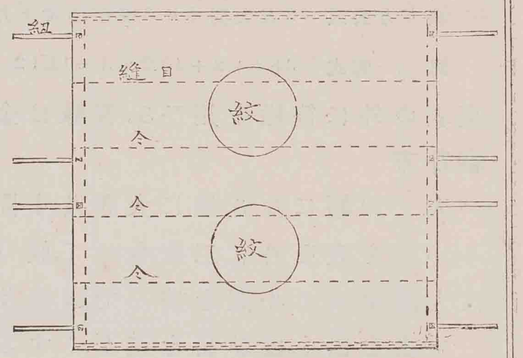
(へ)布幅の中央で,前後の上部角の中央に,4.5寸の穴を開けて,裾口と同樣に縁を取る。

釣臺の油單

名稱　圖參照

釣臺に掛けた處





裁ち切り寸法及布數

丈50位　幅五布乃至七布位(並布の場合)

但し釣臺に合せて定める。

積り方公式　丈×布數＋紐丈＝用布

同　　算式　50×5＋8＝258

紐の長さ及幅は簞笥油單と同じ。

縫ひ方

(い)布を五枚共に縫ひ合せ,折りは一方に返す。

(ろ)左右の耳を,二本糸で二度縫ひにする(針目を互違いにする)。

(は)丈の兩端を,0.5寸幅の三つ折り縫ひにする。

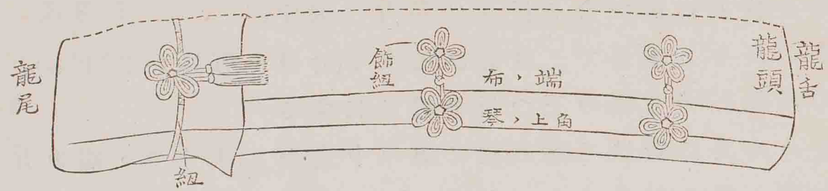
(に)紐を八本共に絎けて,圖の樣に幅の中央から,3寸づゝ端の方へよつた處と,端から3寸入つた處とに附ける。

琴の油單

仕立て方の種類
- 甲　琴を全部被ふ仕立て方。
- 乙　表と兩端の裏を被ふ仕立て方。

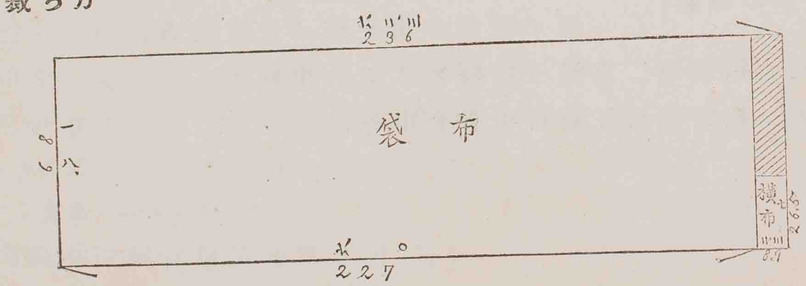
地質
- 表　繻珍·羽二重·緞子·縮緬·メリンス·更紗等。
- 裏　紅絹·瓦斯紅絹·新毛斯·金巾等。

名稱　圖參照　(甲の仕立て方)



用布 { 表　大幅(18寸)　丈62.3
　　 { 裏　小幅(9.5寸)　丈121.3

表の裁ち方



裏の裁ち方

用布の中から丈2.3裁ち切つて,横布とし,殘りの丈を二つに切る。

縫ひ方

(い)龍舌の處に入れる厚紙を,次圖の通りに裁ち,表になる方に薄綿を引き,其上に表の横布を貼り附け,裏には裏の横布を貼り附け置く。

龍舌の處に入れる厚紙の裁ち方

(ろ)裏を二枚縫ひ合せ,折りは片返しにする。

(は)袋布の裏表を合せて,一方の端を縫ひ,折りは裏の方へ返し,表を裏に0.5寸折り返し置く。

(に)袋布の幅の兩端を,縫ひ折りは裏に返し,表に引き返し置く。

(ほ)裁ち目の方で,幅の中央と厚紙下幅の中央とを合せて,待ち針を刺

しそれから上の方に,布と厚紙との釣り合ひを取り,布幅の殘る分は,右を上にして重ね,重なつた處の下は裏表共に,其他は表だけ厚紙に縫ひ附け裏を縫ひ目の上に絎け附ける。

(へ)布と同色か,又は配合のよい色の0.2丸の打ち紐を三本にして,梅結びにし,釋迦と輪の附いたのを,二組作り,其他に總を附けたのを一つ作り置く。

(と)共布か,又別布で幅0.5寸丈30寸の紐を絎け置く。

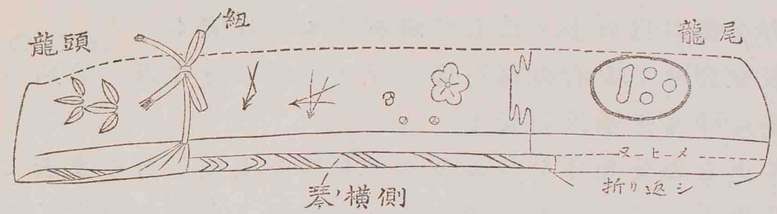
(ち)絎け置いた紐を,端の方から5寸入つた處で,布幅の中央に置き,7寸位の間,絹糸二本で千鳥に縢り附け置く。

(り)一組の梅結びを,龍頭の方から7寸入つて,圖の通りに上になる方に,釋迦の附いた方を,下になる方に,輪の方を置いて,綴ぢ附ける。

(ぬ)總の附いた飾を,紐を附けた上に載せて綴ぢ附ける。

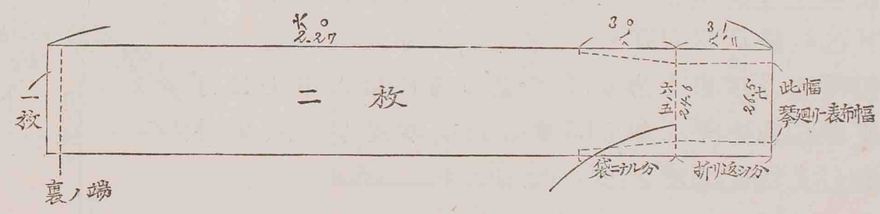
但し寸法は,其琴によつて異なれば,前述の方法で其琴に合せて仕立てる。

乙種油單の出來上り圖



用布 表 並幅丈60 / 裏 〃 〃 丈59 外に紐として 幅 1.5 / 丈 11 のものを三枚を要する

標の附け方



此幅ハ琴ノ龍尾ノ幅ヲ度リ其寸法ニ綴ミ五分ヲ加ヘル

縫ひ方

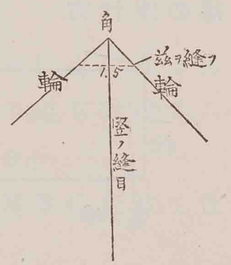
(い)一方を裁ち目のまゝにして紐を二本縮け置く。

(ろ)裏表を合せて,左右の端を縫ひ,折りは裏の方に返し,龍頭の方で,表を裏に0.5寸折り返し置く。

(は)折り返しの分8寸を布の表に折り返し,丈長き方の裏表で挾んで折り返しの端まで,四つ縫ひになし,其處で糸留めをして(四つ縫ひの處で,一ケ所3寸位の間裏を縫ひ付けずに置く)丈の端まで縫ひ,縫ひ殘した處から,表に引き返して,其處を縮け附ける。

(に)龍頭の方で,布幅の兩端に紐を二本糸でチキリ留め☒に縫ひ附け置く。

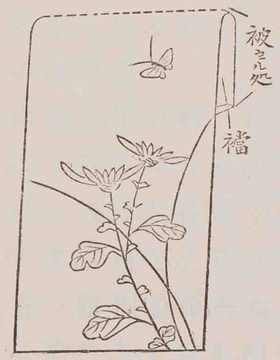
(ほ)龍尾の方で,裏を外に,して,竪の縫ひ目が中央に行く樣に,角を平になし1.5寸の間摘み置く。(次圖參照)



鏡の被ひ

仕立方の種類
- (甲)上部の折り返る部分に,襠を入れる仕立て方
- (乙)仝　　襠を入れない仕立て方

名稱　圖參照



地質
- 表　縮緬·羽二重·メリンス·更紗等
- 裏　メリンス·新毛斯·金巾等

鏡の寸法(鏡の種類は多いが參考までに三種の寸法を記す)

(鯨尺は寸單位 メートルは糎單位)

名稱	寸法 鯨尺 幅	寸法 鯨尺 丈	寸法 メートル 幅	寸法 メートル 丈
大	8.8	25	33.3	94.7
中	8.8	16.8	33.3	63.6
小	7.24	14	27.3	53
厚サ	0.75		2.8	
備考	幅10.4にて丈は大の寸法と同樣のものもある			

(甲)の積り方(大)

公式

身 { 鏡幅＋綴ミ＋2縫代＝裁切リ布幅
　 { 鏡丈＋折リ返シノ分＋厚ミ＋綴ミ＋2縫代＝裁切リ布丈

襠 { 厚ミ＋2縫代＝裁切リ布幅
　 { 折リ返シ＋縫代＝裁切リ布丈

算式

身 { 8.8＋0.5＋0.2×2＝9.7
　 { 25＋6＋0.75＋0.5＋0.2×2＝32.65

襠 { 0.75＋0.2×2＝1.15
　 { 6＋0.2＝6.2

注意　折り返しの寸法は大中小の鏡丈の四分の一,小は同じく三分の一位とする。

縫ひ方

(い)身幅を裏表合せて,兩端を一分縫ひ代を多くして縫ひ,折りは裏に

返し,表を裏に0.05返し置く。

(ろ)襠の上部を丸く裁ち,下部を身と同様に縫ふ。

(は)襠の後裾から,前裾まで身の裏表で挾んで,四つ縫ひにし(裏を一ケ所2寸位縫ひ殘す),襠のない處は,二枚で縫ひ,表に引き返して,縫ひ殘した處を紵ける,(左右共)

(乙)の縫ひ方

(い)兩端を,甲の時と同様に縫ふ。

(ろ)折り返しになる分を,表に折り返して,長い方の裏表で挾み兩側を縫ふこと,乙種の琴油單と同じ。

(は)上部の角を乙種琴のと同様に,鏡の厚みだけに摘む。

附言　鏡の上部,角丸き時は,布にも丸みを附ける。

又襠の入る處を,絹糸で千鳥に縢り其糸を厚みだけ寛めて襠に代へることもある。

兩面着物

兩面の着物は,兩側共表に出して,着られる樣に仕立てるので,一枚で二枚の着物の代用をする。

裁ち方

裏表共,普通衣服の裁ち方と同樣で,外に袖口と裾口との裆布を要する。

裆布の寸法　袖口·幅1寸丈18寸。

裾口·丈1寸のものを五布取る。

標の附け方(衿)

裏表共普通衿の表と同樣にする。

縫ひ方

(い)袖口を二枚合せ,其中に布裆を幅二つに折つて挾み,四つ縫ひになし,其他は衿服と同樣に縫ふ。

(ろ)裏表共に背·脇を縫ひ,衽を附けて裾を合せる其時裆布を一枚毎に

裾と同寸法に縫ひ合せ,丈を二つに折つて,挾み縫ひにする。

(は)各縫ひ目を綴ぢて,袖を附け,衿下を縫ふ。

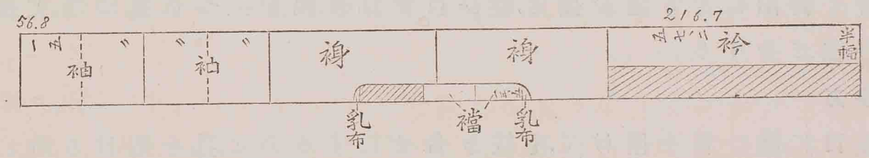
(に)裏表の衿山を合せて縫ひ,縫ひ目を開き,一枚を裾に縫ひ附けて衿先きを縫ひ,此處も縫ひ目を割り,一方の裁ち目を折りて細かに衾け附ける。

兩面羽織

兩面羽織は,着物と同意味で,片側に縞,片側には無地等を附ける。

並幅の布を以て,兩面羽織の裁ち方積り方。

但し袖丈14.5寸　　身丈26寸の仕立て上り。



積り方公式　裁ち切り衿丈=(上身丈+三ッ衿縫代+繰越×2+前下+衿先縫代)×2

裁ち切り襠丈＝上身丈＋三ツ衿縫代＋繰越－袖附＋上下ノ縫代

總尺＝4裁切袖丈＋4(上身丈＋三ツ衿縫代＋裾口縫代＋繰越)＋2前下＋裁ち切衿丈

同　算式　(26＋0.3＋0.15×2＋1＋1)×2＝57.2

26＋0.3＋0.15－14＋1＝13.45

15×4＋(26＋0.3＋＋0.5＋0.15)×4＋1×2＋57.2＝227

裏の裁ち方　表の裁ち方と同じ,但し乳布を要せず。

標の附け方

(い)袖　袖口布を掛けない外は,普通衿羽織と同じ。

(ろ)裙·襠　裾口に縫ひ代を取るの外は,普通衿羽織と同じ。

(は)衿　衿山になる處を接ぎ,縫ひ目を割り,幅を二つに折つて,丈標と合標とをする。

縫ひ方

裾口に,縫ひ目を附けて,毛抜き合せにするのと,乳を附ける時に,裏表の前布で,乳を挾んで縫ひ,表に返して,其兩側の縫ひ代を折り

出して,衿を附ける(此時乳の處を縫ひ付けずに,穴にして置く)衿先きを縫ひ,縫ひ込みを開いて,綴ち附ける外は,普通衿羽織と同じ。

帛　紗

地質　鹽瀨·縮緬·綸子·羽二重·緞子等で,定紋を染め出すか,模樣を附ける。

幅と丈との關係　總べて正方形のものは,幅丈が同寸であつても,縱より幅の方が廣く見えるものであるから,一割位縱の方を長くする方がよい。

仕立て方の種類　(1)衿(甲·引き返し,乙·裏·附き)(2)單

但し衿は,裏を袍かせて,鏡にするのと,又四褄にするのとがある。

各種の寸法

(鯨尺は寸メートルは糎單位)

種類／名稱	幅（地質幅）		丈（上り）		備考
	鯨尺	メートル	鯨尺	メートル	
大帛紗	18	68.2	20	75.8	
中帛紗	12—14	45.5—53	13.5	51.1—60.6	
小帛紗	9.5—10	36—38	10.5—10	40—37.9	
茶帛紗	8	30.3	7.6	28.8	別織地
六寸角帛紗	6	22.7	6.6	25	大幅三つ割り
四寸角帛紗	4	15.2	5	19	

注意　大體の寸法を記したが其地質によつて多少の相異がある

仕立て方

(袷)　裏表を合せ,一ケ所を1寸位殘して,周圍を縫ひ,折りは裏に付けて,表に返し縫ひ殘した處を,細かに絎ける。

但し殘さずに糸を寛めて置いて,其所から返すこともある。

(單)　周圍を,捻り絎けにする。

附言　袷の場合,縫ひ目に五色の糸で,鼻けを掛けることもあり,又四角に總を附けることもある。

紋の寸法

(鯨尺は寸メートルは糎單位)

種類／名稱	鯨尺	メートル
大帛紗	8	30.3
中帛紗	6	22.7
小帛紗	4	15.2

風呂敷

地質　木綿·毛織物(毛襦子·メリンス)·絹·(縮緬·八反·甲斐絹·郡内)等で,無地·縞·模様物の外,定紋を染め出すこともある。

寸法　大幅(二布),三布,四布,五布,(一反物)等がある。

幅と丈との關係　正方形になすか,帛紗と同様に丈を少々長くする。

仕立て方　袷の場合には,帛紗と同樣に縫ひ,單の時は,周圍を三つ折りにして縫ふ。又木綿等で,布を縫ひ合せる場合には,片方に折りを附けて,伏せ縫ひになし,端の耳は二度串縫ひにする。

手提袋の類

手提袋は,時々の流行によつて,その形を異にするが,その目的は實用的のものと,裝飾的のものとに分れる。

實用的のものは,その目的に合ふ樣に,便利で,且堅牢な地質を選ばねばならぬが,裝飾的のものは,色彩·配合·形態·地質等に重きをおいて,作らなければならない,それに依つて衣服と相待つて,一層その風姿を引き立てるものである。

現今多く用ひられるものは,學校鞄·リング附きバツグ·總附きバツグ·信玄袋·千代田袋·革製のオペラバツグ·アフリカバツグ等である。

地　質

表　縮緬·金紗·羽二重·紋·琥珀·鹽瀨·繻珍·厚板·繻子·毛繻子·天鵞絨·メリンス·サージ·羅紗·レース·ヅツク·キヤンバス·サガラ等。

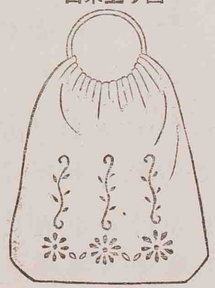
裏　精好·繻珍·綸子·羽二重·甲斐絹·輸出羽二重·絣·平絹·瓦斯甲斐絹·シルケツト·更紗·新モス·キヤラコ·毛繻子等。

幅　用布の幅は,常幅·中幅·大幅·ヤール幅等がある。

リング附き手提袋(一名買物袋)

これは外出のときに,色々な必要品を入れる,小形のものと,買物入として,小し大きいものとある,故にそれ等の用途に應じて,形の大きさ及び地質を定める。

出來上り圖



地質　表　買物入れとしては,サージ·キヤンバス·メリンス·毛繻子·羽二重等。

散歩用小形のものには,羽二重·金紗·レース·絞等。

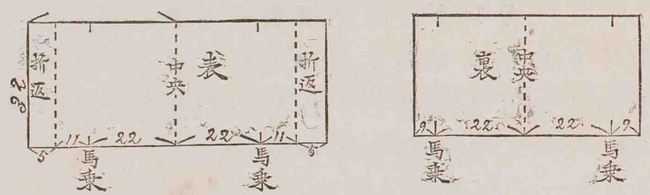
裏地　表布に應じて定める。

裁ち方

用布　表丈·21寸　幅·8.5寸　裁ち切り寸法　幅, 8.5寸　表の折り返り, 1.5寸

裏丈·17寸　幅·8.5寸　馬乘, 3寸(上り)

附屬品　リング一對



縫ひ方

(1.)口になる方を中表に,裏表を縫ひ合せ,折りは裏の方に返す,その時左右の口にリングをはめておく。

(2.)馬乘り止りに,四つ留めをし,兩側を四つ縫ひにする,折りを表に返す(馬乘りから表の方に返す)。

(3.)馬乘りを,細く綴け,馬乘り止りに,閂留めをする。

(4.)リングの周圍を綴ぢつける。

(5.)底の作り方は,表から底の中央と,脇の縫ひ目とを合せて,角から1寸入つて,斜に三角を作り,ミシン縫ひをする。

三角の角を,脇の縫ひ目に綴ぢつける。

(6.)縫ひ目に鏝をかけて,仕上げをする。

附言　表地厚の時は,兩脇は四つ縫ひにせず,表裏別々に細く縫ひ,縫ひ目を割り,縫ひ込みを綴ぢつける。

單の縫ひ方

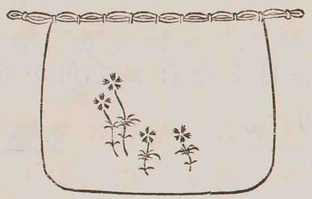
表用布は,裏の折り返し布不用で,只縫ひ代として5寸を取る。

脇を縫ひ,縫ひ目を纏り附け,馬乘りは切り込みを入れて,細く縫ひ代を纏り附ける。

口にリングをくるみ,細く纏り附ける。

千代田袋

出來上り圖



地質

厚きものでも,柔きものでも,よろしい好みに應じて,前項に擧げた地質の中から選ぶ。

裁ち方

用布　表　丈·12寸　幅·6.5寸　裏　表布と同樣。

附屬品　紐·29寸　絹打紐·28寸

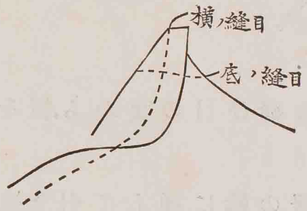
縫ひ方

(1) 裏表の口を中表にして,縫ひ合せる,その時表の方を少し緩み加減にする,折りは裏の方につける。

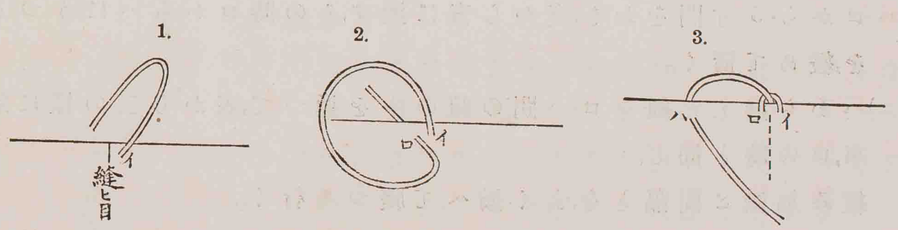
(2) 兩側は四つ縫ひにする,但し兩方とも,底から1寸の間は,裏表別々に縫ふ,他の片方は,表に返す所として,裏を2寸縫ひ附けずにおく。

(3) 底の縫ひ方は,裏表の底の中央を合せ,次に中央と横との縫ひ目を

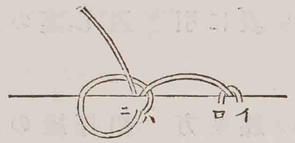
合せ布を左右に平に置き,角から2寸入つた所を,斜に返し縫ひにする,折りを表の方につけ,縫ひ殘しから表に引き返し,裏の縫ひ殘しを絎け附ける。



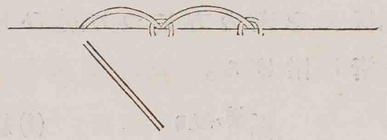
(4) 紐通しの滕り方　絹打紐の端を紙に包み,撚りて先きを細く尖らし,次に示す順序に,穴をあけながら滕つて行く。



4.



5.



(イ)袋口の先きから,1寸奥に入つた所の,脇の縫ひ目の裏から,紐を表に出す。(イの位置)

(ロ)イに並べて,表から裏に通し,イから出た紐の輪に通して引き抜く。

(ハ)ロから·5寸間をおき,裏から表に通す,その時ロからハにうつる紐を,緩めて置く。

(ニ)ハから通した紐を,ロ·ハ間の紐の中を通つて,表から二の様に通す事,ロの時と同じ。

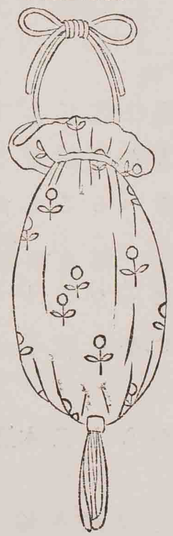
緩み加減と間隔とを,よく揃へて滕つて行く。

(ホ)紐を出し,二つに切つて,左からと右からと通す,然して紐を輪に結

んでおく。

(ヘ)仕上げ。

出來上り圖



總附き手提袋

地質　金紗·紋·レース·縮緬·平絹·輸出羽二重等,柔き方がよろしい。

裁ち方　用布　表　幅·10寸,丈7,5寸　裏　幅·10寸,丈5.5寸。

附屬品　紐·32寸　ビーツ.42寸　硝子玉·1個

縫ひ方

(1)表裏の口の方を,中表に合せて縫ひ,折りは表の方に返す。

(2)脇の縫ひ代·2寸を取り,裏布の端に一方と中央に,穴·3寸を明けて,穴滕りをする。

(3)丈を二つに折り,表裏を筒の様に縫ひ合せ

る,折りは穴のない方につけ,表に返す。

(4) 裏の穴明き0.3寸の幅に,二本袋の周圍に標を附けて,表裏をよく合せて,ミシン縫ひか,表の方から鎖縫ひをする。

(5) 裏表の縫ひ目に鏝をかける。

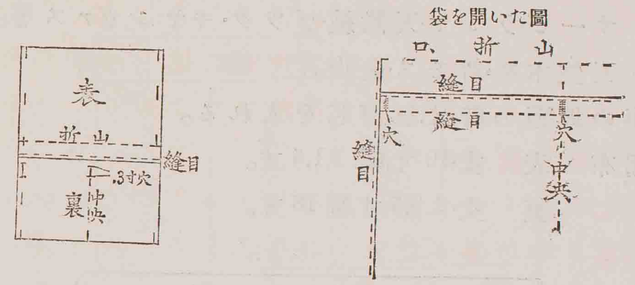
(6) 底は,糸の丈夫なもので,表だけ裏の方から·15寸の縫ひ代にして,縫ひ縮める,裏もその通りに縫ひ,縫ひ代を中に折り込んで縮める。

(7) 底にはビーツの總を附ける,色は袋の配合をよく考へることが,必要である。

附け方は,50番のカタン糸を二重にして,斜に通し,ビーツの4寸になるまでを繋ぎ,それを五節作り,各を輪にして合せ,糸を硝子の飾りむに通して,底につける。

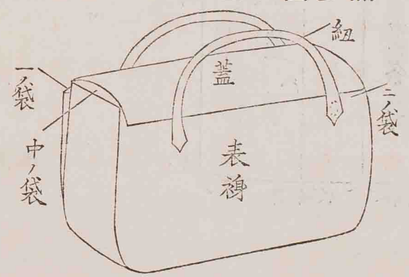
(8) 紐は16寸づゝに,二本に切り,裏の穴の左からと右からと二本通す。

(9) 仕上げ。



學校鞄

各部の名稱 出來上り圖參照



此の袋は,書物或は學用品を入れ,學生の用ひるものであるから,堅牢を第一とし,外見は學生に適する樣,上品高尚を旨とし裝飾を施す事が必要である。

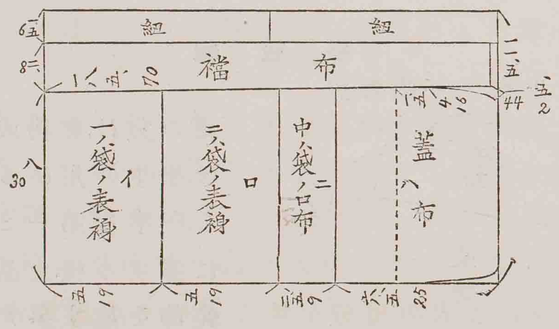
地質　表　サージ·ラシヤ·天鵞絨·ヅツク·キヤンヴァス等。

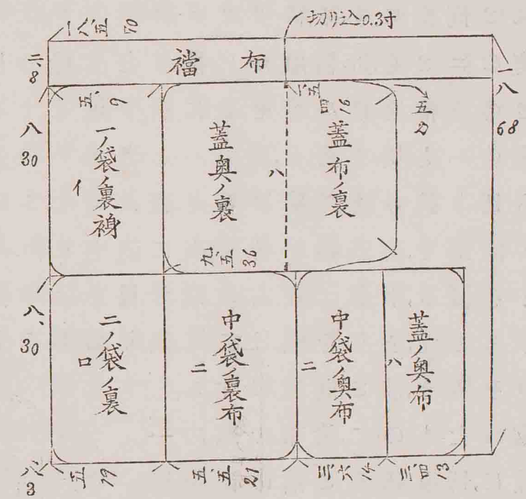
　　裏　天竺木綿·新モス·金巾。

若し表裏の地薄の時は,三河芯を入れる。

裁ち方　用布　表　丈·19寸,幅 11,5寸。

　　裏　丈·18,5寸,幅·18寸。





縫ひ方

(1)(イ)先ず圖の様に,裏表の用布を裁ち,表のイと裏のイとの上部を縫ひ合せ,表に引きかへし,端より·05寸入つたる所に,ミシンを掛け

る,口もこれと同様にする。

(ロ)表のニと裏のニとを,針目細かに接ぎ合せ,縫ひ目を割り,裏のニと表のニとの上部を縫ひ合せ,表に引き返し,ミシンをかける。

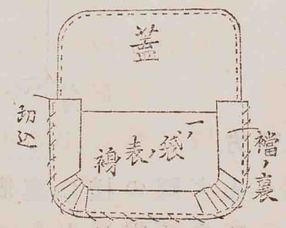
(ハ)表のハと裏のハと接ぎ合せ,裏のハと表のハの蓋になる所を,切り込みから切り込みまで縫ひ合せ,表からミシンをかける。

(ニ)被せ布丈の兩端を,裏表縫ひ合せ,表に返しミシンをかけて置く。

(2)(イ)ハの上にイを置き,下部と左右の裁ち目をよく揃へ,ハの上部の幅を少しゆるめて,廻りを躾けにて假り綴ぢをしておく。

(ロ)ニの上にロを置き,前と同様にする。

(ハ)ハとイと重ねたものに,襠布の幅の一方を,圖の様に,切り込みと襠の端を揃へて,半返し縫ひにし,裁ち目のほつれない様に一束に縢る,次にロとハと重ねたものに,襠の殘りの一方を,前と同様



に縫ひ付ける,その時襠の丈の端と,ニの上部の端とをよく揃へて縫ふ。

これで袋は一の袋・中の袋・二の袋とも出來たから,假綴ぢを殘らず取り,表に返す。

(3)(イ)紐の上り幅を,·5寸になる様に縫ひ,表に返し,丈の兩端を,1.5寸づゝ殘して,眞綿をかたく入れ,端の綿の入らない所を,劍形にして躾けにて假縫ひをする.かくして二本紐を作る。

(ロ)一の袋の左右,脇の縫ひ目から1.5寸入り,下から4寸上つた所に紐先の劍形の周りを,ミシン縫ひにし,二の袋にも,これと同様にして紐を附ける。

これで,全部縫ひ終つたから,鏝でよく仕上げをし,蓋布を,出來上り圖に示してある様に,二の袋の中に挾む。

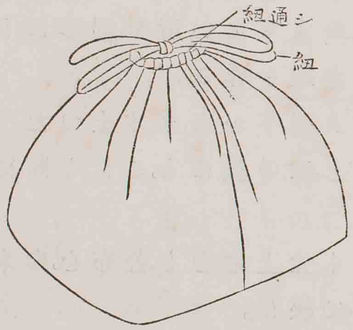
信玄袋(一名合切袋)

此の袋は,旅行用として,重寶な袋である,以前は小さく作り,手提とし

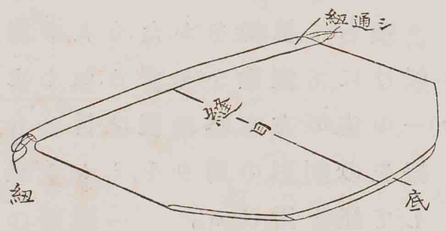
て用ひた事もあつたが,現今では,殆ど旅行用のものになつた,それ故外見よりも,實質に重きを置き,堅牢な,地質で作らねばならぬ。

地質　ヅツク·サガラ·小倉織·雲齋織·その他地厚の布を用ひる,裏は木綿織の,丈夫なものを選ぶ。

出來上リ圖



底を二つに折り疊んだ圖

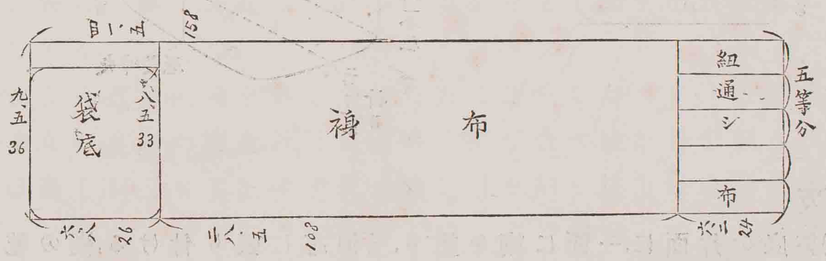


裁ち方

用布　表布　丈,41.5寸　幅,9.5寸。裏布　丈,35.3寸　幅,9.5寸。

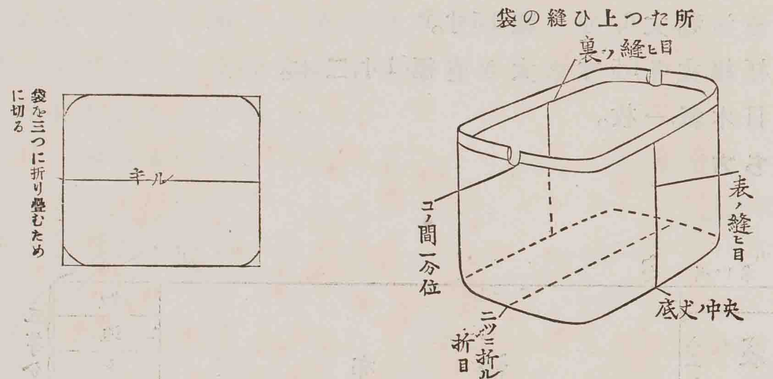
附屬品　厚紙,丈8寸　幅6寸二枚張り合せて用ひる。
三河芯,丈6,8寸　幅9.5寸。
打紐,丈31.5寸　太さ直徑·1寸,二本。
日本紙,一枚。

表布の裁ち方



裏布は,紐通し布が,不用であるのみで,他は表と同様。

袋布の裁ち方



縫ひ方

(1)(イ)袋底の片面に,一面に糊を塗り,三河芯に張り付ける,糊の乾かぬ内に,袋底を切りたる所と,三河芯を外側にして,二つに折り疊んでみる,かくすれば,三河芯に折り疊むだけのゆるみが附く,糊が乾いたなら,底の厚紙より,廻りを1糎づゝ大きく,三河芯を裁ち切る。

(ロ)日本紙一枚を,よくもみ,糊氣を去り,鏝にて皺をのばし,袋底の三河芯と同じ大きさに裁ち,廻り·2寸位に糊を附け,裏用布に張り,型紙通りに裁ち,袋底の三河芯の張つてない方に,一面に糊を塗り,裏布と型紙とを張り合せたものゝ,型紙の方に,三河芯の裁ち目と型紙の裁ち目とを,よく揃へて張り附ける。

(ハ)表底布の裏に,袋底の三河芯の方を合せて,廻りを躾け糸で假縫ひをする。

(2)(イ)襖布の,表の兩端を縫ひ合せ,一方に折りをかへす。

(ロ)襖布の裏の兩端を,針目を細かく接ぎ合せ,縫ひ目を割る。

(ハ)紐通し布二本半を,接ぎ合せ,縫ひ目を割り,裁ち目の端を伏せ縫ひをなし,上り丈を13.7寸になる樣に,丈の端を三つ折りにする。裏を中に,幅を二つ折りにして,躾けを掛けて置く,殘りの二本半もこれと同樣にする。

(3)(イ)袋襠の裏表で,袋底を挾み,四つ縫ひにする,その時表身の縫ひ目を前頁の圖で示す通り,底の丈の中央に合せ,その反對の側に,裏襠の接ぎ目を合せて,半返し縫ひにする,折りは表の方に折り,表に引き返す。

(ロ)紐通し布の兩端が,袋底の二つに折れる所の,一直線上から,1寸離れる樣に,袋表襠に縫ひ附け,折りを襠の方に返し,裏襠の裁ち目を折り,縫ひ目に纏り附ける。

(ハ)打ち紐を二本,紐通しに通す,紐の接ぎ目を左右に一つ出す。

(ニ)紐通しの口の所で,襠と紐通しとに掛けて,閂止めをする。

(ホ)鏝をかけ仕上げをする。

出版書目録

專門教育用

書名	冊數	著者	發行	定價	送料
裁縫全書 單衣の部	一	東京女子專門學校 東京裁縫女學校	大正十三年六月	貳圓	十二錢
同 袷綿入の部	一	同	大正十三年九月	貳圓	同上
同 肌着帶の部	一	同	大正十三年十一月	貳圓五拾錢	同上
同 羽織袴の部	一	同	大正十四年一月	貳圓五拾錢	同上
同 兒童洋服の部	一	同	大正十四年六月	四圓	同上
同 束帶五衣の部	一	同	大正十四年三月	貳圓	同上
同 高等裁縫及雜部	一	同	大正十四年七月	參圓五拾錢	同上
同 男子洋服の部	一	渡邊滋	大正十三年九月	貳圓	同上

中等教育用

新裁縫教科書	前編 中編 後編	東京女子專門學校 東京裁縫女學校	大正十三年十月 大正十四年一月 大正十四年一月	各貳圓 五拾錢	一冊十二錢 三冊十八錢
裁縫科新教授法	全	東京女子專門學校教授 吉村千鶴	大正十三年六月	貳圓	十二錢

參考用

裁縫教授改善資料	一	渡邊滋	大正十三年九月	貳圓	十二錢
文部省教員檢定試驗 家事裁縫科問題解答集	一	東京女子專門學校 東京裁縫女學校	大正十三年八月	五圓	同上
同上增補（十二年度）	一	同上	同上	壹圓	同上
同上增補（十三年度）	一	同上	同上	壹圓	同上
月刊雜誌 家事と裁縫		同上	毎月一回	一ヶ月五十錢 六ヶ月參圓	二錢 不要

375.5
To46
C2
昭和54年4月5日
資学1671

東京市本郷區東竹町
東京裁縫女學校出版部
電話小石川一一三九番・三七五八番・振替口座東京一九八二〇番

大正十四年七月二十日印刷
大正十四年七月二十五日發行

定價金參圓五拾錢

東京市本郷區東竹町三十五番地
編輯兼發行者　東京裁縫女學校出版部
代表者　渡邊滋

東京市本郷區本郷四丁目三十九番地
印刷者　富谷元吉郎

東京市本郷區本郷四丁目三十九番地
印刷所　二原堂

東京市本郷區東竹町三十五番地
發行所　東京裁縫女學校出版部

電話小石川 三七五八番 一一三九番
振替貯金口座東京一九八二〇番

3755
S E69
105852